

## 令和3年度第2回図書館協議会会議録

■ 日 時：令和3年10月29日（金）14時から15時まで

■ 場 所：中央公民館 視聴覚室

■ 出席者：委員（小木曾文夫、岩島哲也、小木曾恵美、正村京司、井籠礼子、小池誠、井上典子）

図書館指定管理者（理事長 安藤昇、館長 早川美幸、職員 廣末朋佳）

事務局（社会教育課 奥谷ひとみ、宮地恵理子、榊原勝哉）

■ 欠席者：委員（遠山みゆき）

● 内容（記録）：

### 1 あいさつ（会長）

コロナ禍の中で対面での図書館協議会ができなかったが、今日は限られた時間で協議するのでスムーズに行えるようご協力いただきたい。

### 2 協議事項 議事進行：小木曾文夫（会長）

#### （1）令和3年度第1回図書館協議会の会議録の確認

資料1について説明。会議録2ページ目の（3）の3つ目「瑞浪市に関係した記事は、永久保存であってもよいと思います。」とのご意見および4つ目の「公の図書館での毀損事案が連続して報道されていましたが、瑞浪市民図書館は大丈夫でしょうか。また亡失の状況も教えてください。」について、図書館より説明。

図書館：以前は新聞をコピーしてスクラップをしていたがかなり著作権違反にあたっていた。市役所の秘書課から新聞の記事そのものをスクラップする行為は著作権違反ではないと教えられた。何年か経ったものをいただいて対応している。当館は49年からの記事しか保管していないので47災害についての原紙はない。新聞の原紙を永久保存することはかなり場所をとるため今のところは考えていない。除籍基準の10年に沿って新しいものに変えている。データ形式では、資料2の県立図書館の新聞記事の探し方というところで、市では新聞紙のデータ版を購入しているのでそこから引用している。ただコピーするには本人が県図書館に行ってコピーしなくてはいけない。マイクロフィルムに残っているものなら瑞浪市民図書館でも代理でコピーができる。マイクロフィルムからコピーをする際に料金と送料がかかるため、県図書館に直接コピーに行った方が便利ではないか。瑞浪市民図書館も窓口になるのでまたお聞きいただきたい。

著作権が2018年でTPP環太平洋パートナーシップにおいて、保存期間が50年から

70年になった。新聞記事では、文を書いた人、写真を写した人が死後70年経ってからしか著作権がフリーにならないので図書館で保存するのは難しい。

瑞浪市民図書館の毀損事案ですが、報道にあがるほどの大きなことはない。ただ、子どもがやぶいてしまうことや水で濡らしてしまったなどの事案は日常的にある。悪質なものは、古い資料に書き込みがあったり、雑誌の特集記事を切り取られたりすることが数件あった。

亡失について、資料3蔵書点検報告書から説明。図書館では毎年本についているバーコードを読み込む作業をすることでどの本が正しい場所にあるか、紛失していないかなどを調べる蔵書点検を行っている。本年度は6月に実施した。本年度新たになくなった本は156点にも上った。このうち雑誌が26冊の実用本が多くなくなっていた。例年レシピ本などが多かったがDIYの大工関係の本が多くなくなっていた。例年の対策では、館内の見回りや雑誌本などをカウンター脇に置くなどしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の時期からカウンター周りの密を避けるためカウンター脇に本を置くことができなかつたため、館内の見回りを強化している。

委員：どこかのコミュニティーでコミュニティー新聞に本に載っているイラストを使ったら訴えられたことがあった。職員も異動で変わるため著作権には十分注意していただきたい。市全体で著作権の取り扱いなどのマニュアルがあると良い。

図書館：著作権に関わる研修をしてはどうか。専門家を呼んで公共の施設で働く職員向けに行うのも大切ではないか。事業計画に取り込みたい。

委員：亡失に関わって、児童書や子ども関連の書籍の数は分かるか。

図書館：すぐにお答えできないが、毎年不明資料リストとして出している。ご要望があれば何が何冊という情報は出すことができる。

図書館：研究書ほど貴重な資料と分かっているので切り取られてしまう。新聞紙に載っているパズルなども鉛筆などで書かれたり、割引券などが切り取られたりする。対策として上からシールを貼ったりしている。

委員：図書館前のリサイクル本の配布は年中行っているのか。

図書館：今は行っていない。各公民館のイベントの際にリサイクル本を持って行くことができるのでまたお話ししたい。

委員：陶公民館の文化祭を行った際に職員からリサイクル本を置いてはどうかという意見がでたので検討したい。瑞浪市民図書館に本を寄贈したい場合、本の種類はどのようか。

図書館：漫画本や百科事典などはいただいていない。

委員：学校はタブレットでの端末を使って調べものなどをする学習をしている。本で調べものをするときの過程で「こんなものもあるんだ」という気づきが少なくなっている。簡素化されて便利になってきているが考える力が弱くなっているのではないかと思う。本から得られる知識があるということ子どもたちに向かって発信していただきたい。相乗効果でタブレットのいいところ、本のいいところが分かり、保護者の方も何か気づくことがあるかもしれない。

図書館：瑞浪市民図書館の例としては、窓口でカブトムシの事について教えてほしいと質問があったら、カブトムシに関連する本をいくつか持ってきて案内している。パソコンでキーワードを打てば関連する本が一覧で出てくるようになっている。図書館を見学に来た学校の子も達には本のいいところをポイントとして話している。

委員：本からタブレットになったことで、漢字の書き取りが弱くなっているのではないか。タブレットで漢字を調べる時など、漢字を確認して終わってしまう。本を読むことによって字を覚えていくものだと思う。

図書館：ブックトークといって、各学校に職員が入って本を紹介しに年に1回行っている。後から借りに来ることもあり、本を読むきっかけづくりになっている。瑞浪市内の学校で行っているが瑞浪小学校だけは1学年のみに行っている。

事務局：続いて、資料1の公共施設再編プランにおける図書館についていただいたご意見について、事務局より説明する。まず、書面会議の際に提示しており、図書館も蔵書冊数が減るのでは、学習スペースが減るのではとご心配いただいたが、現在の計画では、図書館の面積および蔵書数についても削減を考慮せず、学生の学習スペースも現在以上に確保することを考えている。皆様のご意見を聞きながら「多目的な人が気軽に訪れることができるサロン型の図書館」をめざして計画を進めているので、ご協力をよろしくお願いいたします。

委員：釜戸に住んでいるが釜戸などの地域が手薄になるとしか考えられない。釜戸中学校も合併して瑞浪北中学校になり釜戸が寂れて行ってしまう。充実した瑞浪駅前に行こうとしても距離があり子どもや高齢者は行きにくい。市内でも過疎化が生まれないように公共施設再編プランを進めていただきたい。

委員：決定報告ではなく、協議できるくらいの情報が欲しい。

事務局：他市の図書館へ視察に行く機会がある。そこで得た情報など必要なことは情報提供しながら進めていきたい。

## （2）令和4年度市民図書館事業計画等について

図書館：新型コロナウイルス感染症対策については、9月の緊急事態宣言解除後、滞在時間を1時間と厳しめにした。現在は、2時間の滞在時間をとっている。今後は行政や近隣施設と相談しながら進めていきたい。

資料4の「令和4年度瑞浪市民図書館年間事業計画案」をご覧いただきたい。イベント学習や学習活動について、本年度は新型コロナウイルス感染症対策や定員を大幅に削減するといった対策を行ったことにより昨年中止となった本と緑のさんぽみちや図書館祭りなどを開催することができた。一方で開催延期や中止になったものもある。9月に開催する予定だった「図書館開設50周年記念講演塩田武士の声」が延期となった。来年度5月頃の開催を予定している。学習活動の新しい講座の「日本史探求講座」も中止となり来年度4月頃に延期することになった。展示活動については、来年度も月ごとに変わるミニ展示や様々な特集本を展示していくつもりである。11月13日に初めて読書会を開催するが、来年度も季節ごとに4回読書会を行う予定。

「瑞浪市民図書館開設50周年記念講演塩田武士の声」を来年に行うが縮小して行う。来年度文化センターの文化ホールなどの工事があり使えないことから、講堂で70人から100人程度の人数で開催しようと考えている。

委員：本を消毒するボランティアの人数はどのくらいか。また、本の消毒はどのようにするのか。

図書館：ボランティア5人と職員で消毒している。消毒方法はペーパーに消毒を湿らせて一冊ずつ拭いている。一番良いのは放置することだが、場所がないので消毒して書棚に返している。

委員：返ってきた本を消毒することで誰が触ったか把握できているが、図書館へ来ているような本を触られるとどの本が触られているのかわからないのでは。

図書館：入口の消毒と書棚の近くにも消毒を置いているので、常に手指の消毒を呼びかけている。

委員：本を入れて除菌できる、除菌ボックスはないのか。

図書館：日本図書館協会では除菌ボックスが新型コロナウイルスに効くという奨励はされていない。除菌ボックスは紫外線で除菌しているのでかえって本を傷めてしまう。だが、東濃5市の近隣図書館は除菌ボックスを導入している。除菌ボックスを使うことで利用者の方が安心して持って帰れるという気持ちの面でのケアができる。

### (3) 利用者閲覧心得について

図書館：資料5をご覧ください。近隣の図書館で訴訟問題があった。いろんなクレーマーなどの対応に疲弊して辞めてしまった職員もいた。そこで、瑞浪市民図書館の中に利用者閲覧心得を貼って啓発していただけたらと思います。

<資料5読み上げ>

委員：図書館に一日居座る利用者はいるか。

図書館：他の図書館ではやめていただくような動きもあったみたいだが瑞浪市民図書館では行っていない。少しでも休んでほしい。

委員：公共の図書館は苦しい状況の中、働かれていると思う。人が集められない中、イベントや展示、講座の毎月の細かい工夫で今後も頑張ってください。

委員：ボランティアと一緒に働いているが、もっとたくさんの人にボランティアに来ていただきたいのでは。だが、ボランティア募集と言われても内容がわからないと出来るかわからない。具体的にどのようなことをいつ行うのか書いていただくと、参加しやすい。

委員：ボランティアは毎年募集しているのか。

図書館：ボランティアの数がだいぶ減ってきている。新型コロナウイルスが怖くてお断りされるケースもある。閉館してしまうといつも来ていただいていたボランティアの方がやめられてしまったりもした。90人くらいのボランティアが70人くらいになってしまった。ボランティアの内容を1人1つにしているため、なかなか活躍の場がない。ボランティアの内容を増やしていきたい。

委員：PTAの話になるが、来年度10月29日に岐阜県研究大会を瑞浪市が主催で行う。市内の施設でできないため、土岐市の文化プラザで行う。土岐市は市役所も立て替えでききれいになり、周辺施設も新しくなっている。多治見市も駅前や駅裏の再開発をして充実している。多治見市の図書館に行くと、多くの学生たちが勉強している。大人も会議室などを利用し、人の動

きが多く見られた。建物の立地は若い人から見ると他の市の建物とすごく比較される。子育てを行う上で重要になってくる。可児市などは教育文化にかかる費用が多い。以前多治見から釜戸町に引っ越してきたが、瑞浪の人口が近隣の市に吸われていっている。近隣の市と比較されていることを意識されると良い。子育てをされている保護者の方からは、瑞浪市より他市の方が良いという声がある。瑞浪市の政策に取り入れられることを願う。

以上